

4. 生活環境調査の概要

生活環境影響調査とは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（昭和 45 年、法律第 137 号）、当該施設の設置が周辺地域の生活環境へ及ぼす影響について調査・予測を行い、その影響を小さくするための保全措置の検討などを行うものです。

① 生活環境影響調査を行う項目の選定結果

生活環境影響調査を行う項目は、環境影響要因と環境要素へ及ぼす要因の関連性から選定しました。なお、環境影響要因及び調査項目については、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」等を参考に選定しています。

表 生活環境影響調査を行う項目の選定結果

生活環境影響調査項目		生活環境影響要因					
		施設 処理水 の放流	最 終 処分場 の存在	施設 稼働	埋 立 作 業	施設から の悪臭の 発 生	廃棄物運 搬車両の 走 行
大 気 環 境	粉じん				×		
	大気質						
	二酸化窒素 (NO ₂)						×
	浮遊粒子状物質 (SPM)						
	騒音			×	○		△
振 動			×	○		△	
悪 臭	特定悪臭物質濃度 または臭気指数					○	
水 環 境	水 質						
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	○					
	化学的酸素要求量 (COD)	○					
	全リン (T-P) または全窒素 (T-N)	○					
ダイオキシン類 (DXNs)	○						
浮遊物質 (SS)	○						
その他必要な項目 (重金属類等)	○						
地下水	地下水の流れ		○				

注) ○：生活環境影響調査を行う項目

△：事業特性から、影響が小さいことが明らかのため、現地調査は実施せず予測・検討のみ行う項目

×：事業特性から、影響がないまたは、極めて小さいことが明らかのため、選定しない項目

② 環境影響評価の結果

■ 騒音・振動

事業予定地周辺の騒音レベル及び振動レベルは、参考とした環境基準値等を満足してしました。

埋立作業に伴う予測結果は、いずれも環境保全に係る基準又は目標を下回っていました。

廃棄物運搬車両の走行に伴う予測結果は、いずれも環境保全に係る基準又は目標を下回っていました。

表 埋立作業に伴う騒音・振動の調査・予測結果

項 目	調査・予測地点	現況値	予測値	環境保全に係る 基準又は目標
埋立作業に伴う騒音 (L ₅)	東側敷地境界	35dB	63dB	85dB 以下
	西側敷地境界	38dB	58dB	
埋立作業に伴う振動 (L ₁₀)	東側敷地境界	30dB	39dB	75dB 以下
	西側敷地境界	30dB	35dB	

表 廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音・振動の調査・予測結果

項 目	調査・予測地点	現況値	予測値	環境保全に係る 基準又は目標
廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音 (L _{Aeq})	国道 458 号	59.4dB	59.5dB	70dB 以下
廃棄物運搬車両の走行に伴う振動 (L ₁₀)	国道 458 号	52dB	53dB	65dB 以下

■ 悪臭

事業予定地周辺の悪臭は悪臭物質及び臭気指数ともに規制基準を満足しています。

本事業における埋立対象物は、焼却残渣、破碎選別残渣、し尿沈砂等であり、特に腐敗性ガスを発生するようなものは埋立しない計画であり、類似の埋立処分場における現地調査結果でも、臭気指数は 10 未満であることから、本事業においても同様に埋立処分場から発生する悪臭はないものと予測されます。

表 悪臭の調査・予測結果

項 目	調査・予測地点	現況値	予測結果	環境保全に係る 基準又は目標
悪臭物質	東側敷地境界	全項目で 不検出	—	—
	西側敷地境界		—	—
臭気指数	東側敷地境界	10 未満	10 未満	12
	西側敷地境界		10 未満	

■水質

熊野川の水質は、大腸菌群数及び全亜鉛が参考とした環境基準値を上回っていましたが、その他の一般項目及び環境項目、健康項目、ダイオキシン類は環境基準を満足していました。

処理水の放流に伴う水質の予測結果は、いずれも環境保全に係る基準又は目標を下回っていました。

表 水質の調査・予測結果

予測項目	熊野川（現況）	熊野川（供用後）	環境保全に係る基準又は目標
BOD (mg/ℓ)	0.5	0.7	2 以下
COD (mg/ℓ)	2.4	2.8	5 以下
SS (mg/ℓ)	13	13	25 以下
T-N (mg/ℓ)	0.4	0.86	1 以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/ℓ)	0.043	0.121	1 以下

■地下水

事業予定内の地下水水質は、環境基準項目及びダイオキシン類ともに環境基準を満足していました。また、地下水の流向は、概ね東側方向へ流下していましたが、ボーリングNo.3では、観測時期により流向に変化が見られました。

処分場の存在による地下水への影響は以下のとおりであり、いずれも環境保全に係る基準又は目標を下回っていました。

表 地下水の調査・予測結果

項目	現況	予測結果	環境保全に係る基準又は目標
地下水の水質	地下水水質は各項目とも環境基準を満足しており異常は認められていない。	事業予定地内の地質は地山風化岩が分布し、全体とし良好な地盤条件であることが確認されている。また、事業計画では、遮水構造は、二重遮水シート構造とし、表面遮水工の下部に電氣的漏水検知システムを設置する計画であることから、地下水水質に影響をおよぼすことはないものと予測する。	現況の地下水位及び地下水の水質に影響を与えないこと
地下水の流れ	地下水の流向は、ボーリングNo.2では概ね東側方向へ流下しており、ボーリングNo.3では、観測時期により流向に変化が見られた。	最終処分場は約 10m程度の深さとなるため、ボーリングNo.3 地点付近の地下水の流向は最終処分場の存在により阻害される。しかし、事業予定地周辺は森林地帯が主であり、近傍には民家井戸や地下水利用等はないため周辺の地下水利用に関する影響はないものと予測する。	

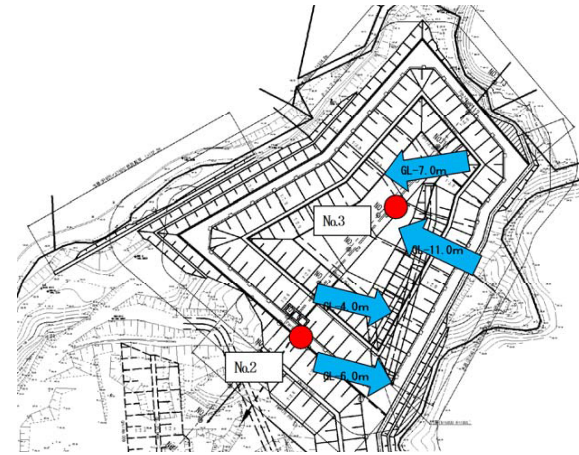


図 地下水流向調査結果

③ 環境保全対策

本事業の実施にあたっては、関係法令を遵守するとともに、周辺地域の生活環境への影響を回避・低減するため、以下に示す環境保全対策を行います。

表 環境保全対策の内容

環境項目	環境保全対策の内容
大気質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 即日覆土、中間覆土を行う。 ・ 廃棄物運搬車両の洗浄及び洗浄水の水処理を行う。 ・ 強風時は、現地状況に応じて埋立作業を中止する。 ・ 廃棄物運搬車両及び建設機械は、排出ガス対策型建設機械低公害車を使用する。
騒音・振動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 埋立作業には、低騒音型建設機械を使用する。 ・ 騒音・振動の環境保全目標を遵守する。 ・ 廃棄物運搬車両は、速度や積載量等の交通規制を遵守する。
悪臭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪臭の環境保全目標を遵守する。 ・ 悪臭の発生を低減するため、即日覆土を実施する。
水質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係法令及び計画処理水質を遵守する。

④ 総合評価

本事業の実施による環境への影響について調査、予測及び評価を行った結果、いずれの環境要素に対しても、環境保全措置を適切に実施することにより、影響は回避又は低減されるものと評価されました。

したがって、本事業の実施による環境への影響を総合的に検討した結果、本事業の実施に係る環境への影響の程度は小さいものと判断します。